

第12回（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会

議事要録

日 時	平成 21 年 4 月 8 日（火）18：30～21：38
場 所	クリーンセンター 3 階 見学者ホール
出 席	寄本勝美委員長、田村和寿副委員長、早川峻委員、越智征夫委員、石黒愛子委員、広江詮委員、橘弘之委員、金子和雄委員、佐々木保英委員、村井寿夫委員、前川智之委員、井上良一委員、事務局（環境生活部環境政策担当部長、クリーンセンター所長他）、傍聴者 3 名、記者 1 名

事務局：市の人事異動があったため紹介。環境政策担当部長として渡部部長。技術担当で和地課長補佐、事務担当で景山主査。委員の方々には委員会の延長に伴い、3ヶ月延長の委嘱状を出させていただいた。井上前技監も都市企画専門委員という形で委員会に入っていた。

1. 「中間のまとめ」の確認

事務局：4月15日より「中間のまとめ」を配布しパブリックコメントを募るが、印刷の関係で修正は明日までなら可能。

事務局より、「中間のまとめ」について、前回委員会以降意見をを受けて修正した点を説明。

委員：この資料を公ではないが地元の町内会役員に打診した。そこで議論になったのが、9ページ、今後の課題の部分で「迷惑施設」のイメージを払拭し「マイナスイメージの施設から、ニュートラルな施設になった」という言い切りが気になるというものであった。ごみは時代と共にいろいろなものが出てくるため、監視の下に正常な状態が保たれていく。完結してはいけない。継続的にやっていかねばならない。

委員：「（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設基本構想」が平成20年6月に出されてこれを基本に進められている。この時は平成27年度の数字を使っていた。「中間のまとめ」では平成29年の数字が基準になっているのだが、一部混在している。基本構想をご覧になっている方にはその年度が変わっていることを説明しておく必要がある。

副委員長：基本構想の位置づけが難しく、拙速な感覚がある。

事務局：基本構想は運営協議会と作ってきた。27年としていたのは最短で考えた場合で、今回委員会での検討も踏まえると厳しいスケジュールになるため数字を

入れ替えている。最終報告では明らかにしていく必要がある。データについても基本計画・基本構想から既に1年が経過し、データの的には2年分の実績が出ている。そのあたりで最終的には精査したい。

副委員長 : - 3などに目標年次の設定について触れた方がいいのでは。

委員 : 数字については難しいと思うのは、市民会議をやって基本計画をやった時から減っているが、これは不景気が影響しているとも考えられる。この傾向をそのまま使うのは危険な気がする。

事務局 : 15,16 ページにある「一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」からの将来推計がその根拠になる。かなり厳しい目標を立てている。

委員 : 6 ページ、整備用地の問題について、あえて整備用地の問題を避けて通ったという印象を与える。 と の2者択一にしているが、果たしてこれでいいのか。また、蓄積の継承とあるが、これは運営協議会のことを言っており、後段で全市的な委員会運営のことを言っている。このことをここに入れておくべき。中間報告は既に発信されており直せないが最終報告で反映すればいい。

副委員長 : 当たり前の比較をしてここに決めるということをしたくない。あらゆるコストを払って他のところにするのか。結局はコスト論になる。6月までの間に市役所北エリアを含んでのコスト計算をきちっとやるべき。また、都立公園が駄目なのかどうか。

委員 : 2つのどちらにするかという提言と捉えられるのでは。都立公園が駄目のなら駄目という回答を得るべき。

委員 : 少なくとも我々に与えられた命題は場所をどこにするかということがあり、これがないということには出来ない。色々な答申などでここがいいということとは出ている。こんな良い施設を作るのにここじゃなくて良いのかという風にしたい。

委員 : 前回建設時の委員会では、最善ではないが次善の用地という書き方がされている。継続使用の適否を決める際にそこに立ち返ってみる必要がある。反対だったが必要な施設だからとここを提供した地主の方々の気持ちを考えなければならぬ。誠意ある根拠を示さなければ納得を得られない。

副委員長 : 整備用地だけの問題ではなく、北エリアを柔らかく考えなければならない。

委員 : 3ヶ月で用地からまちづくりの話が決まるのか。

委員 : 6ページの4は市長報告向けになっている。これはパブコメを待つまでもなく保留になっている。今後の話になるのでこの段階ではこれで良い。9ページの今後の課題の中の3番目、操業協定書というタイトルを付けるのであれば後半を直すべき。ISO14001は環境マネジメントシステムと明記する。クリーンセンター単独でISO14001を取り直さなくてもいいと思うが、環境目標

をはっきりできればいい。また、「チェック&フィードバック」について、本文だけでなくまとめにも入れて欲しい。

事務局 : 42 ページに、資料編に詳細に書いてあるものを要約して記入する。環境方針は市全体で統一されたものであるが、環境目標については事業所ごとに定める。クリーンセンターでの具体的な目標を明確にする。今回、新クリーンセンターができた後は「協定書の遵守」を含めて、項目毎に目標を定めることとする。

2. 今後の議論の進め方・今後のスケジュール

委員 : 3ヶ月ということでは要領よく時間を上手く使い、6月18日には議会報告となっているため決めなければならない。概要版だけを読んでも難しい。検討の結果をお知らせするのは大事なので丁寧にコミセン勉強会等を行っていく必要がある。3ヶ月を上手く使えば全市の皆さんに受け止めてもらえると思っている。

委員 : 今まで新施設の在り方を検討してきた、これだというものが出来たわけではない。問題点などを勉強してきたスタート段階についた。その施設づくりするのに場所をどうするという議論をどう進めていいかわからない。都市機能としての合理性という切り口などでないと「うちには要らない」という議論になる。都市機能の在り方など、課題が抽出できるような議論をしないと散漫になる。

委員 : 委員会がどの程度までやるかということになる。パイロットプラントの具体的なものは次の委員会で決めるような形になるし、場所、まちづくりはある程度のところまでできると思う。

委員 : 場所の問題について、まちづくりということをやってもらってクリーンセンターだけではなく市役所北エリアとして、地域を活性化するためには地域の要請を聞かねば。こういう施設にどのような機能を持たせるかなど。

副委員長 : なぜ緑町コミセンに、もっと投資しなかったのか疑問に思う。

委員 : 段差があり、収納も無い。全市的なものを汲み取るものにしては、説得力がない。

委員 : これまでの議論は基本構想で未検討の部分、先送りされた事項について方向を見出し、それを受けて新施設の仕様や条件の整備を行った。まちづくりの中で、それら要求される仕様の施設をどういうところに作っていくかがこれからの議論。前回建設時の、どのようなものが来るかわからない状況とは違う。施設そのものから要求される必要な広さ、周辺環境ははっきりしてきた。その辺が明確になっているので、用地の見直しも効率的に検討できる段階になっている。都市計画により、ここにはこういうものを造るとするのは決ま

っており、広い敷地のエリアから候補地は絞られてくる。コスト試算は、実現の可能性を見極める範囲で行い、絞り込んでいけばよい。

委員 : 本当は 3 箇所程度候補があって、そこから選ぶというところから始まる話。東京都に頼むというのはいりえない話で、やる必要はない。爆発の危険性は減った。緑はもっとオープンに作れる。大気汚染は少ない。答えは決まっていると言うが、どう決まっているかをはっきりしていくべき。市役所北エリアであるなら、行政が案を出さなければならない。市の各部課で案を出せと言ったときにどういうところが出てくるのか。そういう議論の中でここだという話になってくるがそこを全くやっていない。

委員 : ここに出来るのであれば、まちづくりの観点から人が集まる場所を作らなければならない。そうすると土地が足りない。テニスコートはどこに持っていけるか。土地利用の総合行政のようなところに話を持っていく必要がある。

副委員長 : この委員会は附帯条件をつけるチャンス。

委員長 : 逆転の発想。草加市は、ちょっと雨が降ると水浸しになるという問題があった。しかし、それは水が豊かということでもある。信州大学の先生が、水をマイナスと捉えず、「水の街」としてまちづくりをしていくという逆転の発想を行った。川を綺麗にして屋形船を始めたり、コンクリートで固めずに自然を楽しめるようにしたりした。和歌山のごみ処理場に関わっているが、委員に「この用地の近くには水の源泉地がある。これはまずいのでは？」と言われたが、水源が近くにあればこそ、行政は必死に有害物質が出ないように努力をするから、良いのではないかと応えた。スウェーデンで、ごみの山を接着剤で固めて、冬はスキー、夏はソリが出来る場所にした。三重の四日市でも固めて山にする取組をしている。このように、「逆転の発想」によってマイナスに捉えられているものをプラスに転じる考え方が求められる。また、「修正の可能性」がない話し合いは単なる説明会になる。いいものはいいものとして反映しなければならない。その中で時間の制限があるのは仕方がない。この二つの原理の中で、話し合いを進めたい。

副委員長 : 今の話を受けて修正の可能性を考えれば、大胆な提案をしてみてもどうか。

事務局よりスケジュール案の説明

委員 : 委員会で出来ることと、他の専門部門に頼むことがある。例えば市の都市計画がわかる人を連れてきてもらう必要がある。あるいは、可能性のある候補地を捜してもらうのはどうか。

副委員長 : 呼ばなくても決められる。委員会として候補地の広さ、周辺環境を明確にしたので、その適地を探してもらえばいい。

- 委員 : 私は都市計画をやっているが、極端なことを言えば都市計画上は位置決定されている場所はこしかない。説明しろと言えばするが、委員会に期待することは今後のごみ処理を含んだまちづくりの計画。施設を検討し、それにあった面積の用地を拾い出してということは出来る。ただし、不況下でさらに下水や学校などのインフラ再整備の時期を迎える中で、なかなか新規の用地取得は財政的に難しい。既存の公共用地でこういうところはどうかという提案をいただければ説明はさせていただき、都市計画上の考え方、公共用地は提示できる。
- 副委員長 : 何かを動かすような提案がなければ、相当のコストを払って場所を決める説得力にならない。
- 委員 : 施設については大体イメージが出来てきた。それとまちづくりとの整合性・位置づけをどうして行くか。そこに論点を集中すべき。スポーツ施設の配置はエゴにより出来ている。この一画をクリーンセンターも含めて、どうまちづくりをしていくのか考えていくべき。野球場が地域にとって迷惑施設であることを周知すべき。そうするとここになってくる。
- 副委員長 : 都市形成の上でこういう配置になっていてエゴとは言いがたい。ただ、スポーツ施設は効率が悪く、焼却施設とは比較にならない。スポーツ施設であっても効率の良いものにしていくことも。3案くらい作り、いたずらに体育協会を敵にするのではなく、近づけてみては。
- 委員 : コミセン勉強会は地元意見に聞くチャンス。そこを活発にやってみないと何が出てくるか読めない。若い子育てをしている女性など、多くの人に参加できる形をとれば。
- 委員 : 最終報告で用地は何丁目何番地まで必要なのか。
- 副委員長 : 「整備用地の検討」なので、エリアという言い方で良い。
- 委員 : 必要なスペース、周辺環境まで明確にしたのであるから、その候補を地図にてあげてもらえれば、その辺でどうかという提言はできる。
- 副委員長 : どこまでサジェスチョンすべきかは曖昧だが、大筋は出していくことになるのでは。
- 委員 : 現クリーンセンターの評価をしてきたが、これを超えなければならない。今のままではまだ「迷惑施設」を脱却していない。夢物語になるかもしれないが、迷惑施設から脱却するにはもう少し理想的なあるべき姿を積み上げて、それを聞いてみるのがいいのでは。
- 委員長 : コンサルが居るが、前回の建設時の委員会ではコンサルの発言もあった。発言してもらうべきではないか。
- 事務局 : 全国的なノウハウもあるだろうし、必要に応じ、委員会として要望をいただくようであれば対応可能。

- 委員 : 用地のところ引かかるが、前回ここに決まった時はスポーツ施設の場所も含めたものの筈だった。結局半分にされた。これは、まだ周辺住民の中にしこりが残っている。緑町三丁目は、ちょっと遠いところに見える。人の流れが出来るような街としての役割を果たすように4分の3の敷地を使えないか。今はNTTやグラウンドがあるゆえに、空白みたいな土地になっていて街としての一体感が生まれにくい。地主がスポーツ施設として貸したため半分はこういう形になった。生涯スポーツの観点に立てば、スポーツ施設は身近にあったほうがいい。自分の近くに分散してあれば良い。千川小のプール跡にテニスコートはどうか。
- 副委員長 : 土地を買うなら、電通を10mセットバックさせるような買い方はどうか。
- 委員 : 出て行ってもらわなくても、配置を組み替えれば住みやすくなる事がある。
- 委員 : 堂々巡りをしている気がする。土地を決めることは出来ないが、方向性を出すことは出来る。何が必要で、スペースがどれくらいか。スポーツ施設を分散させたなら、どうまちづくりになるのか。スポーツ施設をどうするかではなく、どういうものがあればいいのか。
- 副委員長 : まだ具体的には話していないが、ヒントは出てきている。
- 委員長 : 専門家ではないから専門家の言うことを信じる。コンサルに発言して欲しいというのは発言が正しいか判断して欲しいということ。
- 事務局 : 率直には、市長も6月議会に一定の報告をしたいとしている。委員会ではきっちり決めるということではなく、概略を出してもらおうことでもいいが、今日の議論を受け次回作業部会を行っていきたい。

了 (午後9時38分)